

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105099
法人名	医療法人 松柏会
事業所名	グループホームてまり
訪問調査日	平成 21 年 3 月 4 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105099
法人名	医療法人 松柏会
事業所名	グループホーム てまり
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町441 (電 話) 099-284-4800

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年3月4日
評価確定日	平成21年4月27日

【情報提供票より】(21年 2月 13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 20日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	5 人
非常勤	13人
常勤換算	13.4人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	水道光熱費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1000 円			

(4)利用者の概要(2月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	Tsukasa Health Care Hospital 高田歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地域の中に、「グループホームてまり」は在る。玄関を入ると、広い開放感のある廊下で、二つのユニットが中央の事務所で繋がっている。利用者は、午後のリハビリ体操の後に、両ユニット間を自分の体力に合わせて、歩行訓練をすることが日課になっており、筋力低下の予防になっている。リビングの、大きな窓からの眺めは遠方の山々の季節の移り変わりが見え、利用者の癒しになっている。昨年の外部評価での改善課題に熱心に取り組み、より良いグループホームづくりに意欲が感じられる。職員は、いつも笑顔で接することを理念に掲げ、家庭のような和気あいあいとした雰囲気作りに努め、毎日のケアに取り組んでいる。医療機関も敷地内にあることで、家族も安心できるグループホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念を作り上げ、地域の行事に出かけたり、ボランティアや体験実習の場に利用してもらうなど、地域との関わりあいを密にできよう努めている。鍵をかけた工夫に取り組み、日中の玄関の施錠をせずにケアが出来るようになっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニットごとにグループで話し合い、管理者がまとめ上げている。職員は、自己のケアを振り返る機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の協力員・包括支援センターの職員の方々の参加により、概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。事業所の報告をしたり、地域の行事の予定等を知るきっかけになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者や職員は、面会時や電話連絡時に要望を聞くよう心がけている。昨年のクリスマス会の後に、家族の意見・要望を聞く場を設けている。これを機に定期的に家族が要望・意見を表せる家族会を作り、積極的にサービスに反映させていく取り組みを検討している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設の施設が一つのコミュニティーになっている。地域で行われるバザーや小学校の文化祭にでかけている。サマーボランティアや高校生の職場体験に来てもらっている。

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の外部評価の改善点に上げられ、地域密着型サービスとしての理念「開かれたサービスで地域とのふれあいを大切にする」と、今までの理念に付け加えて作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週月曜日の朝礼後に理念を唱和し、職員間の意識付けが成されている。職員は、理念を共有し、介護計画に取り入れ、毎日のケアの中で実践するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設の施設が一つのコミュニティーになっている。地域で行われるバザーや小学校の文化祭にでかけている。サマーボランティアや高校生の職場体験に来てもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとにグループで話し合い、管理者がまとめ上げている。昨年の外部評価は、職員に報告し、話し合い改善に取り組み改善できている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の協力員・包括支援センターの職員の方々の参加により、概ね2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。事業所の報告をしたり、地域の行事の予定等を知りきりかけになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成20年11月10日に介護相談員の受け入れをしている。利用者の状況等について連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	てまり便りを年2回発行している。家族の面会時に暮らしぶりを報告たり金銭管理の報告をしている。体調の変化時には、随時電話等で報告している。	○	定期的に利用者一人ひとりの暮らしぶりを家族に報告する工夫を望みます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、面会時や電話連絡時に要望を聞くよう心がけている。昨年のクリスマス会の後に、家族が集まり意見・要望が表せるような場を設けている。家族からの要望は、職員と話し合いサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のユニット間の交流があり、職員も日頃からユニット間に行き来しているので、全職員が馴染みの関係を築いているため、急な離職があった場合は、他ユニットからの手伝いをもらい、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一回のペースで、行事の反省会・内部研修を実施している。新人研修や内部研修の計画はない。外部研修には、職員全員が平等に参加できるようにして、内容の報告をしている。	○	新人研修・内部研修の計画を作り、グループホームに必要な研修や指導が確実に出来ることを望みます。研修の実施記録を作り、全職員が共有する工夫を望みます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区のグループホーム協議会の研修に参加して交流や情報交換をしている。	○	職員が、他のグループホームと相互訪問や勉強会を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者が一緒に見学に来てもらい、お茶を飲んだりレクレーションをしたりして、雰囲気を感じてもらっている。入居後は家族の協力をもらい、外出したり気分転換しながら徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節ごとの行事、郷土食など学びながら一緒に準備したり食事を作ったりして、利用者と共に過ごしあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴について家族より情報をもらい、本人との会話の中から希望や意向を聞いたり、職員の気付きなど出し合って把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの変更時に、職員でケアカンファレンスを行い、職員の気付きなどを聞いている。担当者会議の内容に医師の意見を取り入れている。	○	担当者会議に家族が参加することが少ないので、本人、家族、職員を交えた会議を開けるように工夫されることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回、介護計画の見直しは6ヶ月ごとに作成している。体調変化等が生じた場合は、その都度見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制により、医療処置を受けながらの生活の支援をしている。家族の要望により、通院介助の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医になっている。かかりつけ医と連携をとり、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の内容については、文書を作成し、入所契約時に説明している。急変時に対応できるように、緊急時マニュアルを作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時に、秘密保持についての契約書を交わしている。プライバシーを損ねるような言葉掛けなど、その都度指導しているが、勉強会をするなどの徹底が図られていない。個人記録等は、鍵のかかる棚に保管している。	○	ミーティングや勉強会で、職員の秘密保持の徹底を図られ、職員の質の向上を期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、朝寝坊して自室で食事をしたり、遅くまでテレビを観たり、その日どのように過ごしたいか一人ひとりのペースを大切にして、希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者の力を活かしながら、職員と一緒に取り組み、職員も同じテーブルでおしゃべりしながら食べている。誕生日には、本人の好きなものを作ったり、定期的に外食や弁当を取ることを利用者は楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に午前中の中入浴を予定しているが、希望があれば毎日でも可能である。入浴の順番等は、一人ひとりの希望・タイミングにあわせて、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のゴミ出し、掃除、おしぼり洗いと利用者の力量にあった役割で、張り合いのある日々を過ごし、三味線・書道・華道・朗読など趣味を楽しんだり、外食・ドライブなど外出して気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、敷地内の菜園の手入れや芝生の庭の散歩をしている。利用者の希望・体力に応じて、近隣の商店まで出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年の改善点であったため、職員と話し合い、マニュアルを作り一日数回の人数確認を職員に意識付けすることで、日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出傾向のある人の行動を把握し、外出されたときは、職員と一緒に出かけ見守るよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火マニュアルを作成している。毎月、ホーム内で夜間火災を想定して、避難訓練を施行している。敷地内の同法人施設の職員へ協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回の体重測定をして、食事量や運動量を随時検討している。水分は、毎食時・おやつ時・入浴前後の水分摂取を確実に行うよう支援している。利用者の状態に応じて刻み食にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下が広くソファやイス・テーブルが置かれ、利用者はそれぞれの場所で過ごしている。リビングは、窓が大きく光がよく入り明るく、また畳のスペースもあり自宅の茶の間のような雰囲気を作っている。所々に季節の花が飾られ、季節を感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、洗面台が備え付けられ、ベッド・箆箆・仏壇・パイハンガー等、思い思いの品を持ち込み、利用者それぞれの個性のある居室になっており、居心地よく過ごせる工夫をしている。		